

金 路 新 聞

あすなるクラブ

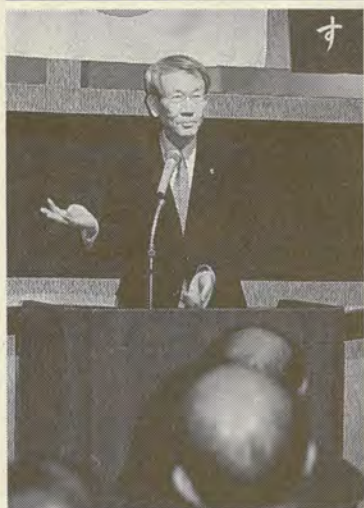
地域活性化の道筋示す

講師に小磯氏(釧路公立)招く

中小企業経営者らの異業種交流組織、経済研修団体釧路あすなるクラブ(宮崎博好会長)は12日、釧路キャッスルホテルで釧路公立大の小磯修二学長「写真」を講師に招き、例会を行った。小磯学長は「釧路の人たちは、国の政策に反対し、地方から提案して自前で公立大を作った。このことはすごい財産。きつちりと国に立ち向かうことで成果に結びつく」と、地域活性化の方向性を示した。

小磯学長は1948年、大

阪市出身。京大法学部卒。72年に旧道開発庁入庁。国土庁専門調査官、在外研究員などとして、地域政策作りに携わ



り、09年6月、釧路公立大地域経済センター設立に伴いセンター長、同大教授。08年から学長。専門は地域開発政策論。

小磯学長は「地方が困れば中央がなんとかしてくれる時代ではない。誰も助けてくれない。自力で生き抜いていく

取り組みをしなければならぬ」と、地方が置かれていく現状を説き、釧路についても

感じているが、道筋が分からない状態」と述べた。

さらに、小磯学長は、釧路公立大が医大誘致に失敗し、市立大構想も国に阻まれたが、一部事務組合による設置という全国初のケースで建学されたことについて触れ、「地域自らの信念で(大学設置を)成し遂げた実績がある。釧路温原もまったくの原野を一気に国立公園にした。伝統はある。持っているものを見つめ直し、身の丈に合った活動をする」ことが、地域活性化につながる」と話し、郷土愛の重要性を訴えた。

(道永竜命)